



岡本太郎作品「月の顔」を新しくなった本庁舎に設置します！

本市出身の芸術家、岡本太郎と言えば、《太陽の塔》(1970年)が有名で「太陽」のイメージが強いですが、「太陽」と対として考えられる「月」をモチーフにした作品も制作しています。

「月の顔」は、正面から見ると満月、横から見ると三日月に見える形の効果が面白い作品です。

岡本太郎美術館展示時には、来館者から白く大きい、丸いフォルムが愛らしいと大変人気の作品で、撮影スポットとしても親しまれてきましたが、今後は市役所で気軽にご覧いただけます。



岡本太郎《月の顔》1981年
岡本太郎美術館エントランスに展示

【作品名】月の顔

【観覧】令和5年10月10日(火)から
開庁日の8時～21時、閉庁日(年末年始を除く)は9時～21時

【場所】市役所本庁舎2階 回廊デッキ

【種類・材質】彫刻・FRP

【サイズ】高さ2,230mm×幅2,000mm×奥行1,800mm

～「月の顔」設置記念イベント～

「マスカレード風」月の顔の仮面をつくって・遊びにこよう」

9月30日(土)に生田緑地で開催する「お月見フェスタ」で、「月の顔」設置記念イベントを実施します。紙皿で「月の顔」を作り当館にお持ちいただくと、オリジナル限定クリアファイルをプレゼントします。

【時間】9月30日(土)11時～17時

※「月の顔」の作り方は、当館HPの「どこでもTAROアトリエ第25弾」で紹介しています。



HP「どこでもTAROアトリエ」



切り抜いたり折ったりしてオリジナルのマスカレード風「月の顔」をつくろう！

秋の岡本太郎美術館は

企画展「TARO賞の作家Ⅲ 境界を越えて」を開催します！

これまでに26回を数える岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)の受賞作家による「TARO賞の作家」展シリーズ、第3回目となる本展では、「境界」をテーマに内海聖史、大西康明、若木くるみの3名の作品を展示します。

- (1) 会期 令和5年10月14日(土)～令和6年1月14日(日)
- (2) 休館日 月曜日(1月8日を除く)、11月24日(金)、12月29日(金)～1月3日(水)、1月9日(火)
- (3) 同時開催 常設展「岡本太郎とスポーツ」
会期：令和5年10月5日(木)～令和6年1月14日(日)(休館日を除く)

TARO OKAMOTO MUSEUM OF ART, KAWASAKI

TARO

川崎市岡本太郎美術館広報誌
2023年10月・11月・12月 Vol. 84



岡本太郎《五大陸》1967年

Contents 目次

企画展「TARO賞の作家Ⅲ 境界を越えて」
次回企画展「第27回岡本太郎現代芸術賞 (TARO賞)」

常設展「岡本太郎とスポーツ」
イベント情報
美術館カレンダー

雲のように有機的な形をした五つの白い塊が、直径2mの青い円のなかにお行儀よく納まっています。白い塊は地球上の五つの大陸を、青は大海原を表現しています。この彫刻はパブリックアートの原型で、1969年に壁画《明日の神話》とともにメキシコのホテルに設置される予定でしたが実現せず、後に千葉県浦安市運動公園に設置されました。直径30mに拡大された作品は、以前は遊び場としても機能していたようで、大陸間を軽々と越境するかのようになりまわると子どもたちの姿が目に見えます。大陸が五つに分かれているようにも、地球は一体であると想起させる作品です。(喜多春月)

企画展

会期:2023年10月14日(土)~2024年1月14日(日)

「TARO賞の作家Ⅲ 境界を越えて」

Transcend Boundaries: The Artists of the Taro Award Ⅲ

休館日:月曜日(1月8日を除く)、11月24日(金)、12月29日(金)~1月3日(水)、1月9日(火)
観覧料:一般1,000(800)円、高・大学生・65歳以上800(640)円、中学生以下は無料
※()内は20名以上の団体料金

既存の美術の枠組みを超えて幅広い分野で活動し、常に社会と関わり力強いメッセージを発信し続けた岡本太郎。岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するべく創設されました。これまで26回を数えるTARO賞からは、国内外で活躍する作家を数多く輩出しています。当館では、本賞の受賞作家による選抜展を「TARO賞の作家」というシリーズで開催してきました。

シリーズの第3回となる本展では、「境界」をテーマに内海聖史、大西康明、若木くるみの3名の作品を展示します。色彩豊かな絵画作品を制作する内海聖史。内海は、絵画は画面だけで完結するものではなく、空間の中にさまざまな配置することで、観る者の動きや感覚に働きかけるものとして、絵画のあり方を問いかけます。「あること」と「ないこと」の関係性を、一貫したテーマとして作品を制作する大西康明。私たちの日常の中に確かに在りながら、捉えられない事象を作品によって顕在化します。大学で木版画を学んだ後、自身が作品の一部となるパフォーマンス作品でTARO賞に参加した若木くるみ。森や波などの自然や日用品など、私たちの身の回りにある多様な素材を使い、版画の可能性を探ります。

この数年、私たちを取り巻く世界のさまざまな「境界」が、かつてないほど揺らぎ、分断され、強く意識されるようになりました。3名の作家が紡ぐさまざまな「境界」は、私たちが自己の存在や自分を取り囲む世界について再考し、新たな視点を得るための手がかりとなるでしょう。

■出品作家:

- ・内海聖史 第6回(2002年)入選
- ・大西康明 第5回(2001年)入選、
第10回(2006年)岡本太郎賞
- ・若木くるみ 第12回(2008年)岡本太郎賞

主催:川崎市岡本太郎美術館



大西康明《虚実の距離》2020年
高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.09
時どきどき想像 高松市美術館
写真:表 恒匡 提供:高松市美術館 (参考作品)



若木くるみ《影版》2023年



内海聖史(Squid/no.2020-25) 2020年
photo by Ken KATO © UCHIUMI SATOSHI

次回企画展

会期:2024年2月17日(土)~4月14日(日)

「第27回岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)」

The 27th Exhibition of the Taro Okamoto Award for Contemporary Art

休館日:月曜日、その他臨時休館あり
観覧料:一般700(560)円、高・大学生・65歳以上500(400)円、中学生以下は無料
※()内は20名以上の団体料金

時代を創造する者は誰か!

1954年、岡本太郎43歳のときに出版された『今日の芸術』。この本には、「時代を創造する者は誰か」というサブタイトルがつけられていました。

1996年、岡本太郎没、享年84歳。

その後、岡本太郎記念現代芸術大賞(2006年岡本太郎現代芸術賞に改称)、通称「TARO賞」が創設されました。彼の遺志を継ぎ、まさに「時代を創造する者は誰か」を問うための賞。

今年は第27回を迎えます。

芸術の新しい可能性を探る、「ペラポーな」(太郎がよく使った言葉です)作品をご覧ください。

主催:公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団・川崎市岡本太郎美術館
審査員:榎木野衣、土方明司、平野暁臣、山下裕二、和多利浩一(50音順)



第26回岡本太郎現代芸術賞展 展示風景

常設展

会期:2023年10月5日(木)~2024年1月14日(日)

「岡本太郎とスポーツ」

休館日:月曜日(10月9日、1月8日を除く)、10月11日(水)、11月24日(金)、12月29日(金)~1月3日(水)、1月9日(火)
観覧料:10月5日(木)~10月13日(金)常設展のみ開催 一般500(400)円、高・大学生・65歳以上300(240)円、中学生以下は無料
10月14日(土)~1月14日(日)企画展とのセット料金 一般1,000(800)円、高・大学生・65歳以上800(640)円、中学生以下は無料
※()内は20名以上の団体料金 ※企画展開催中は、企画展とのセット料金に変わります。

当館で収蔵している岡本太郎の写真を眺めていると、岡本が野球やゴルフなどのスポーツに興じている姿をときたま目にします。特にスキーについては、瞬間瞬間に命を懸けて斜面に身を投げ出す緊張感の虜となり、毎シーズン、制作や執筆などの忙しい日々を縫って雪山に通いました。雪山を前にひとりで「危険に向かい勇気をもって己れをひらく」姿勢は、芸術や生き方に対する岡本の指針と共通するものがあります。

本展では、「岡本太郎とスポーツ」をテーマに、岡本が競技場等のために手掛けた作品や、岡本にとっての「スポーツ」にまつわる作品をご紹介します。当館ならではの「スポーツの秋」をお楽しみいただけますと幸いです。



岡本太郎《マラソン》
1964年

	企画展	常設展	イベント
10月	「TARO賞の作家Ⅲ 境界を越えて」 10月14日(土)～14日(日)	「岡本太郎とスポーツ」 10月5日(木)～14日(日)	●作品の中の生きものを、描いて動かしてみよう 10月9日(月・祝) ●はいはい&よちよち美術館ツアー 10月18日(水) ●美術館でフラワーレッスン Vol.25 「秋色協奏曲～秋色のウッドジョッパーズアレンジメント～」 10月28日(土) ●美術館誕生祭! シルエットクイズラリー～美術館に潜むものを探そう～ 10月29日(日)
11月			●出品作家3名によるリレートーク 11月2日(木) ●若木くるみワークショップ 「刷りとれ! 生田緑地の凸凹探索」 11月3日(金・祝) ●はいはい&よちよち美術館ツアー 11月8日(水) ●美術館でフラワーレッスン Vol.26 「Holy night forest～北欧風キャンドルリースアレンジ～」 11月18日(土) ●内海聖史ワークショップ 11月19日(日)
12月			●担当学芸員によるギャラリートーク 12月9日(土) ●美術館でフラワーレッスン Vol.27 「～慶賀の輝き～艶やかに装うモダンシックなお正月飾り～」 12月23日(土)

川崎市 岡本太郎美術館

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枳形 7-1-5 生田緑地内
TEL: 044-900-9898 FAX: 044-900-9966
https://www.taromuseum.jp

利用案内

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日は除く)、
祝日の翌日(土曜・日曜は除く)、
年末年始、他に展示替えによる休館日あり
観覧料 観覧会ごとに異なります。



公式 X(Twitter) 公式 Facebook 公式 Instagram 公式 HP



交通案内

- 小田急線向ヶ丘遊園駅
一南口から徒歩17分
一南口から市バス3分
(5番のりば:溝口駅南口行・溝19系統(1時間に1～2本))
「生田緑地入口」下車、徒歩8分
- 京浜東北線向ヶ丘遊園駅
一南口からタクシー4分(日本民家園前下車)徒歩5分
一北口から小田急バス10分
(3番のりば:専修大学前行・向10系統(1時間に2～6本))
終点「専修大学前」下車、生田緑地西口園路
(通行可能時間8:00～17:30)を通過して徒歩6分
- 車利用の場合は、生田緑地東口・西口駐車場(有料)をご利用ください



はいはい&よちよち美術館ツアー

小さいお子さんとご家族のための鑑賞ツアーです。太郎さんの作品をお子さんと一緒にゆったりと楽しみませんか。

10月18日(水)、11月8日(水) 10:30～11:30

対象 3カ月～3才までのお子さんご家族の方

定員 8組

場所 常設展示室 **料金** 無料(保護者のみ要観覧料)

申込 電話受付(10/18は10/4(水)、11/8は10/25(水) 10:00から受付開始)、先着順



作品の中の生きものを、描いて動かしてみよう

岡本太郎の絵画から生きもの(推し)を見つけて、描いて切り出し、金具を使って動かしてみるワークショップです。どんな動きをするのか想像を膨らまして、つくってみましょう。

10月9日(月・祝) ①10:00～12:00 ②13:30～15:30

対象 小学生(小学2年生以下は要保護者同伴) **定員** 各回10名

場所 ガイダンスホール、展示室 **料金** 300円

申込 電話受付(9/22(金) 10:00から受付開始)、先着順



美術館誕生祭! シルエットクイズラリー～美術館に潜むものを探そう～

洞窟のような空間の中で、太郎作品の形をヒントに、作品を見つけ出すクイズラリー。探検気分であらゆる作品見つけに挑戦しませんか。

10月29日(日) 12:30～15:30

対象 どなたでも(小学生以下は要保護者同伴)

場所 展示室 **料金** 無料(要観覧料)

申込 エントランスにて随時受付



「TARO賞の作家Ⅲ」展 関連イベント

○出品作家3名によるリレートーク **日時** 11月2日(木) 15:00～

○若木くるみワークショップ「刷りとれ! 生田緑地の凸凹探索」
出品作家の若木くるみさんと一緒に生田緑地の自然を版画にしてみましょう。

日時 11月3日(金・祝) 14:00～16:00 **講師** 若木くるみ

○内海聖史ワークショップ **日時** 11月19日(日) **講師** 内海聖史

○担当学芸員によるギャラリートーク **日時** 12月9日(土) 14:00～

※関連イベントの詳細は当館ホームページで随時お知らせします。

美術館でフラワーレッスン

10月28日(土)

Vol.25 「秋色協奏曲～秋色のウッドジョッパーズアレンジメント～」

秋色のグラデーションの花や穂をジャルダン風にデザインして、ウッドジョッパーズアレンジメントを作りましょう。かぼちゃのピックも入れてハロウィンにも飾れます。(9/27(水) 10:00受付開始)



11月18日(土)

Vol.26 「Holy night forest～北欧風キャンドルリースアレンジ～」

今年のクリスマスは北欧風に。グレイッシュな曇り空が続く北欧の冬、人々はキャンドルの優しい灯りのもとゆったりとした時間を過ごします。ゆらゆら揺れる温かな灯りを見ながら、ヒュッゲなクリスマスを楽しみましょう。(10/18(水) 10:00受付開始)



12月23日(土)

Vol.27 「～慶賀の輝き～艶やかに装うモダンシックなお正月飾り～」

明るい年の訪れを願って、お正月飾りを作りましょう。シックなシャンパンカラーのタッセルをお好みの形に組んで作ったベースに、迎春の慶びを表す紅白、ワイン系の色の素材を加えて、色数を絞ったグラデーションでまとめたモダンでシックな壁飾りです。(11/22(水) 10:00受付開始)



開催時間 各回①10:30～12:00 ②14:00～15:30

講師 重田章子(日比谷花壇認定講師) **対象** どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

定員 各回15名 **場所** 創作アトリエ **料金** 2,500円+観覧料

申込 電話受付(受付開始日・時間は各回の内容をご覧ください)、先着順

※11月・12月の画像はイメージです。

岡本太郎《月の顔》が本庁舎でご覧いただけます。

岡本太郎の彫刻作品《月の顔》が、新しくなった本庁舎2階の回廊デッキに展示され、10月10日(火)からご覧いただくことができます。(観覧は、開庁日の8～21時、閉庁日は9～21時です。)

岡本太郎の代表作《太陽の塔》(1970年)など、太陽のイメージが強い岡本ですが、太陽と対して考えられる月をモチーフとした作品も制作しています。正面から見ると満月、横から見ると三日月に見える、形の効果が面白い作品です。同型の作品が、岡本との交流が深い草月流家元・勅使河原宏の工房もあつた福井県の越前陶芸村にも設置されています。



岡本太郎《月の顔》 1981年

その他、関連イベントは当館ホームページで随時お知らせします。https://www.taromuseum.jp